

議 事 概 要

会議名	令和 5 年度 第 4 回 男女共同参画センター運営協議会	
日時	令和 5 年 12 月 1 日 (金) 19 : 00 ~ 20 : 40	
場所	中央公民館 3 階 第一会議室	
出席者及び 欠席者	出席者	11 名
	欠席者	3 名 (迫田翠委員、緑川啓太委員、高野好央委員)
	事務局	町民生活部 町民活動課 男女共同参画センター
	傍聴者	なし
次第	1 開会 2 あいさつ 3 議題 (1) 令和 5 年度講座について ① 第 3 回講座の結果報告 ② 第 4 ~ 5 回講座の準備状況報告 ③ 次年度以降の講座について (2) パネル展について (3) センターだよりについて (4) 小学生向けリーフレットの作成について (5) その他 4 閉会	
あいさつ (会長)	<p>先日の第 3 回講座「メンタル不調のサインを見逃さないために私たちができること」に参加したので、報告も兼ねてお話をさせていただく。</p> <p>講師の話は聞きやすく、分かりやすい例えに置き換えたり、グループワークも取り入れるなど有意義な講座であり、また同様の機会があれば参加したいと思うような講座であった。今回のメインテーマはメンタル不調の人が周りにいた場合の「気づき」についてだと思ったが、どちらかという自分自身が鬱にならないためにどうしたらいいかといった話が大勢と感じた。しかし、専門家とあって話の内容に信憑性・具体性があり、とてもためになった。</p> <p>このような講座では、比較的年配の方、女性の参加が主だが、今回は 50 代男性の参加もあった。現役の方が興味を持ってもらえるような内容であり、その内容に興味を持って参加されたと推察する。こういう方にもっと来てもらう方策を引き続き検討していく必要があると思う。告知方法についても、チラシなどを実際に目にしてもらうためにはどうするか、アイデアを出し合いながら意味のある講座となるよう検討していきたい。</p>	

議 事 概 要

	<p>そして、本会も意味のある協議会にしていきたいと思っているので、よろしく願います。</p>
<p>議題</p>	<p>(1) 令和5年度講座について</p> <p>①第3回講座の結果報告</p> <p>事務局から説明後、質疑応答&総合討論。</p> <p><第3回講座>「メンタル不調のサインを見逃さないために私たちができること」</p> <p>事務局 筑波大学医学医療系准教授の笹原氏に講師をお願いした。 定員20人のところ応募者25人で、最終的な参加者は17人だった。 評価は、資料1のアンケート結果のとおり大変好評であった。 グループワークがあり、当初、初対面の人同士で大丈夫かと不安があったが、いざやってみると問題はなく、かえって高評価であった。 年齢層も他の講座に比べて比較的ばらけていて良かったと感じた。</p> <p>②第4～5回講座の準備状況報告</p> <p>事務局から説明後、質疑応答&総合討論。</p> <p><第4回講座>「私は男女平等を憲法に書いた」上映会&パネル展</p> <p>事務局 「広報あみ」への掲載について、委員各位からのご意見を伺いながら作成した。当方からの提案に対し、修正点等はなかった。「広報あみ」令和6年1月号（12月15日発行）に掲載の予定。 資料2のポスター&チラシ案についてご意見をいただきたい。説明文などは、「広報あみ」掲載の案内文を踏襲している。本日の結果をもって確定し、12月15日には各方面に募集のための周知を図りたい。 上映会については宮崎市男女共同参画センター及び宮崎県、パネル展については国立女性教育会館からご協力をいただいた。 映画の内容が、男女平等に関する基本となる憲法の作成過程を紹介するドキュメンタリーなので、運営協議会委員、男女共同参画社会推進会議委員にも是非ご覧いただきたい。定員を20人としているが、開催場所（集会室）の収容可能人数としては余裕があるので、多少超えても許容したいと思う。 展示場所の確保の関係で展示期間は短いものの、関連したパネル展も企画している。 委員各位には、ご自身の参加、周囲への案内などご協力をお願いします</p>

議 事 概 要

	<p>る。</p> <p><第 5 回講座> 「キャッシュレスに対する講座」</p> <p>事務局 資料 3の前段は「広報あみ」（令和 6 年 1 月号 1 月 12 日発行）に掲載予定の案内文である。後段、点線以降は講座の内容イメージを記載している。</p> <p>「広報あみ」の原稿締切日が本日（12 月 1 日）であること、委員に対し事前に本講座の内容について詳細に説明する機会がなかったことなどから本日の提示となった。</p> <p>本日、お気づきの点についてご指摘があれば、校正の際に修正は可能と思うのでご意見を伺いたい。</p> <p>子供向け講座の周知方法について、アイデアがあればお聞きしたい。</p>
井上委員	<p>【質疑応答&総合討論】</p> <p>例えば第 3 回講座のような時に受講者を集める方法は結構簡単だと思う。町内の会社のトップに町から講座案内・参加者募集について手紙を出せばいいのでは。</p>
会長	<p>一つのアイデアとしては可能性があると思う。どの会社にもというのは難しいだろうが、講座の内容によって案内したい会社にアクセスしてみるといった検討の余地はあるのかなと思う。町として難しければ、許可を得られれば「当協議会」からとするなど手段はあるのかなと思うが、いかがか。</p>
井上委員	<p>そこで注意すべきは、メールは駄目、郵送で行うべき。宛先も担当者ではなく、上の方の人だとスルーされない。</p>
事務局	<p>その都度の行き当たりばったりの対応ではなく、組織として対応する場合は案内ルートについて関係者の共有が必要と考えている。例えば企業団体などと。</p>
会長	<p>今すぐ連絡してどうこうということではなく、例えばこれまでに繋がりのある方を通じて案内していくなども一つのアイデアかと思う。</p>
事務局	<p>通常、会社のトップに案内を出す場合は、組織としては担当者と事前共有しておくものとする。一方、先方の担当者にとっても依頼があれ</p>

議 事 概 要

井上委員	<p>ば時間を割くことになる。良いルート構築ができないかとは考えている。</p> <p>担当者を介するようなことをするからいけない。例えばメンタルの話であれば人事部長（人事関係だけ）に直接出す。町から出すとまずいのであれば「当協議会会長名」で出すとか。確認をいちいちするのは面倒なので、参加しないならしないでいい。ダイレクトメール（DM）のように考える。また、対象はある程度従業員が多い会社が良い。</p>
会長	<p>アイデアの一つとして見てもらえればいいと思う。いろいろなルートがおそらくあると思う。身内も含めて近いところからでもいいのかなと思う。以前講座を共催したキャノンであれば、いきなり偉い人ということではなく、繋がりのできた方に伝え、そこから少しでも広がればいいかなといったところ。手紙としてきちんと出すということではなく、このようなことから試してみるというのはいかがか。</p>
事務局	<p>今のご提案はすごくピンポイントでいいなと思うが、やはり各企業も組織として動いている中で、例えば工業団地であれば連絡協議会というのがあり、町としても企業担当部署があるので、そのあたりで何が可能かの確認はしてみる。</p>
新橋委員	<p>第4回講座について、以前メディアに取り上げられていた記憶がある。テーマは面白いと思うが、時代背景が今とギャップがある。男女平等についても然り。その辺で今見た人たちがどう感じるか。この方がなぜ取り上げられるほどの位置づけにあるかといったことがもう少し分かれば多少なりとも興味が増すかなと思う。可能な範囲で結構なので考えてみてはどうか。</p>
会長	<p>第5回講座については、対象が1～4年生、親子15組ということで進めてよろしいか。</p>
委員各位	<p>了。</p>
会長	<p>他にご意見がないようなので、決定事項に関しては事務局の方で進めていただきたい。</p>

議 事 概 要

事務局	<p>③次年度以降の講座について</p> <p>事務局から説明後、質疑応答&総合討論。</p> <p>前回会議において、事務局として手持ちの講座候補を13件全て共有させていただきました。</p> <p>この中から、2件は今年度の第4回及び第5回の講座とすることについて了承いただいた。</p> <p>残りの11件から、委員の関心が高かった7件を次年度講座候補として挙げた。その内訳は、着手中のものが2件、残り5件は今回の検討結果を踏まえてGoサインが出れば先方との接触、情報収集に努め、講座企画立案に向け進めたいと考えている。</p> <p>【参考】のa～dに記載した4件については、先の7件ほど関心を得ていないが、次年度以降の候補として残しておくこととした。</p> <p>先日、井上委員からは追加情報・意見があったので後ほど紹介する。まずは着手中のものから順次説明させていただく。</p>
事務局	<p><着手中></p> <p>ア.「気象予報士による防災出前講座」</p> <p>資料4は、11月時点までに先方（講師予定者）と打合せを行った結果を整理したもの。</p> <p>本日の検討の結果、進める方向で了承をいただけたら、開催に向けて具体的に作業を進める。</p> <p>開催時期については、梅雨に入る前頃を想定している。講習時間については、先方から2時間程度はほしいとの要望があった。講習内容は、基本的な気象の知識、阿見町周辺の気象的な特徴・想定される気象災害、気象災害から身を守る方法・女性などの視点を入れたもので、前半を講義、後半を気象庁のワークショップを阿見町向けにアレンジしたものとする予定。個人ワークとするかグループワークとするかは相談していく。</p>
事務局	<p>イ.「歴史から見えてくる男女共同参画」</p> <p>前回会議の結果を踏まえ、「講座の趣旨」を含めた企画案を作成し、講師候補者の紹介を国立女性教育会館に依頼した。</p> <p>先方から講師として職員の推薦があり、その方と連絡をとった。「男女雇用機会均等法から30年」パネルの解説や、資料5男女雇用機会均等法すごろくなどを使用し、講座の趣旨に沿った内容を考えてみると</p>

議 事 概 要

	<p>いった前向きな回答をいただいている。</p> <p>講師候補者は、国立女性教育会館情報課に専門職員として所属し、普段から女性教育会館が作成するパネル作成などにも関与している方。こちらの要望内容などにもご理解をいただいております、講師依頼の件について了承いただいている。本日の検討の結果、進める方向で了承をいただけたら、開催に向けて具体的に作業を進める。</p> <p>※「講座の趣旨」等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史の授業の様態で、男女に係る社会状況を「こういった社会だった」と過去のこととして紹介する。皆（特に若者）が歴史を知り、過去を振り返ると、それがその当時の常識だったが、今見るとおかしなところばかりで不公平・不平等に見えたりするところがあることに気づいてもらう。 ・男女雇用機会均等法から 30 年パネル（国立女性教育会館 NWEC 女性アーカイブセンター展示パネル貸出）など ・専門家による解説、講話 <p style="text-align: center;">【質疑応答&総合討論】</p> <p>ア.「気象予報士による防災出前講座」</p> <p>会長 今まで防災講座は多く行ってきたと思うが、今回の気象予報士による講座との比較についてお聞かせ願いたい。</p> <p>事務局 気象予報士という気象の専門家から気象の基本や阿見町周辺の気象の特徴などを学んだ上で、防災も学ぶということを考えた。講師予定者が防災士の資格を持っているかは未確認だが、気象と防災の両面でお話しいただくことを想定している。</p> <p>会長 防災に関する講座は多く行われているので、同じような講座と思われる可能性がある。「気象予報士」、そして阿見町の気象的特徴を知るといったところは興味深いと思った。阿見町は比較的気象災害が少ないので、大変だ大変だといったことで防災講座をしたところであまり響かない。その面では今回の設定は興味深いと思う。</p> <p>木村委員 最近、防災士の資格を取りに行ったので興味深い。防災はいろいろなことがあって、気象予報士から見る災害に対する話は重要であり、ワークショップもしてくれるとのことなので良いことだと思った。</p>
--	---

議 事 概 要

佐々木委員	<p>この企画の内容については、講師の方がどこまで阿見町の特徴を調べられるか分からないので、町の防災危機管理課あたりと相談した方が良い。防災危機管理課はやろうとしていることをいろいろ出しているので、阿見町の特色って何なのかなど相談した方が良い。</p> <p>阿見町は、傾斜地の危険地域などはハザードマップを見ての通りで、どちらかというとも雨の被害はあまりない、だから雨でもあまり自分と関係ないと思っている。関心があるとすれば地震対策だが、町民は防災について意識が低いと思う。このようなことをどのように押さえて話をしてくれるかによって内容が大分異なってくると思う。講師と内容を詰める際は、このあたりの感覚を踏まえてこちらでも準備した方が良い。</p>
井上委員	<p>主題・副題に災害から身を守るとか気象災害に備えとあるが、日頃から何を踏まえ、警報が出たらどうするかといった話がないと成り立たないし、一般的な気象だったらテレビで事足りる。家で何を準備しておくべきか、子どもがいる家庭ではどういう準備が必要か、避難所を利用する際はどんな準備が必要かなど、「準備」の話があればいいと思う。主題・副題にその「防災の準備」に対するものが必要かと思う。</p>
会長	<p>井上委員の発言内容は、資料 4の【参考】に講師予定者とそのような話をしていることは書かれている。発言の趣旨は、主題・副題のところでそれが分かるようにした方が良いというものと理解した。具体的な案があれば事務局も助かると思う。</p>
佐々木委員	<p>一部未組織の区はあるものの、基本的に各行政区に自主防災会が組織されている。各自主防災会でどのようなものをどの程度持っているかのアンケートを10月に区長会で実施し、そのデータは全て防災危機管理課が持っているので参考になると思う。このような準備について予算化している区は1/3くらいなのが現状。</p>
井上委員	<p>家庭として何を準備しなければならないというのが大事ではないか。</p>
遠藤委員	<p>これまで家庭に関する防災についての話は多く行っているが、参加者が本当に少ない。そうであれば見方を変えて、気象予報士からの視点</p>

議 事 概 要

<p style="text-align: center;">木村委員</p>	<p>でこの地域はどうかといった話を聞くというのも一つの形だと思うので、ぜひ実施したい。</p> <p>異常気象現象が多く、天気予報を見ても警報・特別警報が出され自らの命を守りなさいと放送されるが、そういった言葉の意味や避難所に行くにもどのタイミングで避難するのかといったことを教えてくれるものと思う。多分、ワークショップの時に実際のシミュレーションもやってもらえるのではないかな。異常な大雨などに対して、個人的にどう判断するかについて話していただければ良いと考える。</p> <p>防災は町でも力をいれているが、男女共同参画センターでは個人を対象に勉強の場を提供しており、個人的に天気予報を見たときに危険か否かをパッとイメージできるような講座になればいいと思う。</p>
<p style="text-align: center;">井上委員</p>	<p>主題・副題の表現を少し変えた方が良い</p>
<p style="text-align: center;">会長</p>	<p>主題・副題の新たな表現案については、後日メールにて皆さんから事務局に提供していただければと思う。</p> <p>これまでのご意見のあった講座内容に関することは、資料 4の【参考】にあるように、既にその内容で進んでいるものと認識している。</p>
<p style="text-align: center;">事務局</p>	<p>佐々木委員が触れていたことに関連してだが、防災危機管理課で地域防災計画を地域密着で策定している。担当課の情報を講師予定者に提供すれば阿見町の実態に合った内容にアレンジしてもらえと思う。町の各種情報が提供可能か否か確認してみる。</p>
<p style="text-align: center;">新橋委員</p>	<p>防災というのはかなり範囲が広いが、気象に絞っていることは良いことだと思う。気象といってもいろいろある中で、何をポイントに置いて話をしてくれるか、阿見町に住む我々にとって何が一番身近で危険な災害・気象災害なのかといったようなことを事前に講師予定者と詰めて、限られた時間の中でインパクトを与えるような講座になれば良いと思う。</p>
<p style="text-align: center;">井上委員</p>	<p>他の部署や講座と被ることはないか。</p>
<p style="text-align: center;">事務局</p>	<p>防災に関する講座はこれまで多くあった。しかし、内容の比率として気象を主、防災を従としたものはこれまでにあまりなく、毛色が異なる</p>

議 事 概 要

会長	<p>ので関心を得やすいのではないかと考えた。比率をどの程度とするかはこれから詰めるが、あくまでも気象がメインと考えている。</p> <p>今回の意見をもとに、エリアとしては阿見町を中心に、内容としては気象を中心とした講座となるよう講師予定者と詰めてほしい。</p> <p>主題と副題については、メールで、忌憚なくアイデアを事務局に提供してほしい。事務局は、提供のあったアイデアからいくつかの候補を選定して再度諮ってもらいたい。後日、このことについて事務局からあらためて締切日を含めメールで案内してもらいたい。</p>
会長	<p>イ. 「歴史から見えてくる男女共同参画」</p> <p>来年度の 2 回目以降の講座案ということでまだ細かく詰める段階ではないが、何かご意見があれば伺いたい。</p> <p>資料 5の「男女雇用機会均等法すごろく」は、前回提示のあった「男女雇用機会均等法から 30 年」パネルとセットで講座資料とする予定と理解している。</p>
委員各位	<p>意見等なし</p>
事務局	<p><候補></p> <p>ウ. 「相続について考える」</p> <p>前回は紹介したが、終活ノートといった一般的なものではなく、もっと踏み込んだ内容を想定している。資料 6のとおり、基本的なことを押さえつつ、先々の認知症対策に主眼を置いたもので「家族信託」などを想定している。</p>
事務局	<p>エ. お薬講座</p> <p>前回は紹介したが、資料 7のとおり、茨城県薬剤師会が県の委託を受けて行う健康教室である。次年度も当該講座は実施予定であることは茨城県薬剤師会に確認済みであり、運営協議会から Go サインが出たら対応可能と考える。</p>
事務局	<p>オ. ダイバーシティ推進センター出前講座「ぼらりす教室」</p> <p>前回会議で、大学生を交えた討論会形式講座に代わるものとして関心をいただいた。コース（プログラム）は、「気付こう！身近にあるダイバーシティとあなたの中のアンコンシャス・バイアス」。前回ご質問</p>

議 事 概 要

	<p>があった申込方法について確認した結果は資料 8 に記載したとおり。申込期間は 4 月下旬～5 月中旬、申込期間終了後に抽選で年間 10 件程度選定するとのこと。今回、申し込みの GO サインができれば、申し込む。</p>
事務局	<p>カ. 「テレ朝出前講座」</p> <p>テレビ朝日の出前講座で、子ども用と大人用があり、内容は相談の上決めるとのこと。令和 6 年度の申し込みについてテレビ朝日お客様フロント部に確認した。内容は資料 9 に記載のとおり。茨城県は対応エリア内であり問題ない。前年実績のある自治体には事前に案内を郵送しているとのことだが、阿見町は該当していない。前年実績のある自治体が優先されることはないとのこと。4 月 1 日以降にホームページから申し込むことになる。</p> <p>講座候補として資料 9 には子供向けの「テレビ番組の裏側をのぞいてみよう！」を挙げてみた。</p>
事務局	<p>キ. 「花王出張講座（おでかけ応援講座）」</p> <p>前回は紹介したが、花王のグループ会社が行うもので、申し込み方法などについて出張講座の事務局に確認した。内容は資料 10 のとおりで、阿見町は対象エリア外の可能性が高いということもあり実施の可能性は今のところ低く、様子を見ることとする。</p>
事務局	<p>【質疑応答&総合討論】</p> <p>申込期日の早い順番としては、「カ. テレ朝出前講座」「オ. ぽらりす教室」の順となり、「エ. お薬講座」は期日が限定されているとはいえ余裕がある。「ウ. 相続について考える」は申込期限に全く限定がない。「カ」と「オ」は講座にするのであれば早々に申し込む必要があるので、事業とするか否か諮りたい。</p>
会長	<p>それぞれについていろいろと意見を聞いていくとなると時間がかかるので、興味のあるものに挙手してもらう方法でアンケートを取っていいか。講座候補ごとに聞いていくので、興味があれば挙手し、なければ挙手しない。「カ」についてはテーマがいろいろあることを前提で考えてほしい。キは実施の可能性が低そうなので、「ウ」～「カ」について聞いていく。</p> <p>「ウ. 相続について考える」3 票</p>

議 事 概 要

	<p>「エ. お薬講座」1票 「オ. ぼらりす教室」9票 「カ. テレ朝出前講座」8票</p> <p>ここにはいろいろな年代の方がいるので、この結果はその凝縮したものとして参考にさせていただきたい。</p> <p>井上委員から講座について先日追加情報をいただいているので紹介させていただく。よろしければ講座候補として挙げておくことも可能。</p> <p>一つ目、井上委員は先日の町主催のSDGsに関する講演会の講師である茨城大学の蓮井教授がお知り合いということで、講演会終了後に男女共同参画についてお話してもらえないか尋ねてみたところ、蓮井教授自身は専門外だが、大学に候補となる女性教員がいて、韓国事情にも詳しいとのこと。</p> <p>二つ目、今回も講座候補として羅列しているが、潮来市にある茨城大学広域水圏環境科学教育センターや土浦市にある茨城県霞ヶ浦環境科学センターを活用して夏休みの子ども向けの自由研究やテーマを設けた講座はどうかというもの。</p> <p>一つ目について、男女共同参画絡みの講座候補としては「イ. 歴史から見えてくる男女共同参画」「オ. ぼらりす教室」に次いで3件目となり、このテーマでの選択にあたってどのように整理するか考える必要があるのご意見等を伺いたい。</p> <p>二つ目について、夏休み企画・子供向け企画としては、霞ヶ浦での講座、「カ. テレ朝出前講座」及び関心は薄い「b.産総研出前講座・実験教室」の3件があり、このテーマでの選択にあたってどのように整理し順位付けするか考える必要がある。</p>
事務局	<p>蓮井教授に、茨城大学に男女共同参画担当の先生がいましたよねと尋ねたところ、今はいないが、今度新しく入った女性教員が韓国のごとくに詳しく、韓国ドラマなどと結び付けて話したら女性が集まるかもしれないと考えます という話になった。</p> <p>霞ヶ浦の講座については、出前で講師に来てもらうか、茨城大学広域水圏環境科学教育センターもしくは茨城県霞ヶ浦環境科学センターのどちらでもいいので阿見町のバスを使って行けば環境が変わって良いと思う。</p>
井上委員	
会長	<p>こういったアイデアをたくさん出してもらおうと、そこから具体的に</p>

議 事 概 要

会長	<p>どう広がるか分からないが、事務局も助かるかと思う。</p> <p>今回、子供向けにキャッシュレスについての講座が企画されている。私自身は70代の方の団体に多く出入りしており、そこでは若手になるので、スマホに関わる質問を多く受ける。コンビニによっても使い方に違いがあったりする。そういう大人向けの講座に興味を持つ方が多いのではないかと思う。難しいものではなく、その場で使い方を教えますよといった気軽なものでいいのではないか。</p> <p>第3回講座に参加して、自分の精神的なものに触れる話、心理的なこととか、心理テストで自分を知るといったような講座があれば興味深いと思う。</p> <p>テレ朝出前講座の資料で、講座内容例として5つ紹介されているが、その中で仕事柄「話し方・コミュニケーション講座」に興味がある。就職支援などで教える側として、敬語とかシチュエーション・相手に合わせたしゃべり方ができていない大人が多いと実感している。</p>
事務局	<p>具体的に進めるにあたって、第4回講座及び第5回講座については、今回提示させていただいた内容で進めさせていただく。</p> <p>次年度について、「ア. 気象予報士による防災出前講座」は阿見町の状況など講師予定者ともう少し情報交換して伝えるべきものは伝え、先方の講座内容のアレンジに活かしてもらえるようにする。</p> <p>「イ. 歴史から見えてくる男女共同参画」については一応了承いただいたので具体的に話を進めてみる。</p> <p>未着手の講座候補について、挙手によるアンケートの結果、「オ. ぼらりす教室」と「カ. テレ朝出前講座」は票が多かったことから、申し込むこととする。</p> <p>「オ. ぼらりす教室」はコースが決まっているので申し込めるが、一方、「カ. テレ朝出前講座」は申し込むコースについて二案出ている。どちらか一方に統一して申し込むか、今年はこちらで来年はこちらというような申し込みにするか決める必要があると考えている。この後委員各位にメールで各コースの案内をお伝えして伺った上で関心の高い方を優先して申し込ませていただきたい。</p>
会長	<p>「カ. テレ朝出前講座」については、夏休みにできるとしたら子供向けのコースということでもいいか。</p>

議 事 概 要

事務局	<p>夏休み子ども企画としては、テレ朝出前講座及び霞ヶ浦関係を考えているが、テレ朝出前講座を優先して申し込んで当たればいいなど考えている。ただし、今年は大人向けの「話し方・コミュニケーション講座」を申し込むとしても参加者が集まるのではないかと思う。その時は子供向け講座を別途考える必要がある。</p> <p>いずれにしても、「オ. ぼらりす教室」と「カ. テレ朝出前講座」は申し込むこととし、「カ」は子供向けにするか大人向けにするかも含め、後日、それぞれの情報を整理して委員各位に提供し、内容の良否について伺うこととする。</p>
井上委員	<p>「カ. テレ朝出前講座」は一つのコースしか申し込めないのか。候補となるコースは全て申し込んでもいいのではないか。</p>
事務局	<p>先方に複数応募が可能か確認を取っていないので確認する。複数応募が不可の場合はどちらを選択するか、複数応募が可能な場合の優先順位はどうするか、後日、情報を整理して委員各位に提供し、ご意向を伺う。</p>
会長	<p>委員各位には、「オ」と「カ」の件のほか、「ア. 気象予報士による防災出前講座」の主題と副題についてもアイデアを提供してほしい。なお、アイデアがないようであれば現行案とすることによろしいか。</p>
事務局	<p>時間的には「オ」と「カ」の申し込み関係を優先し、霞ヶ浦の自由研究に関係するものは、準備に着手するものの、「カ」が落選したらあらためてお諮りしたい。</p> <p>茨城大学の蓮井教授に関わる井上委員からの案件については、男女共同参画絡みの講座候補の 3 件の内の一つになる。テーマごとに分類して、いろいろなテーマのものを年に 5 つなら 5 つ用意するには整理が必要になるので今後諮っていきたい。</p> <p>今年度はあと 1 回運営協議会があるので、その時に、これまでの検討結果の結論、次年度の講座のおおまかな計画決定を図りたい。少なくとも第 1 回講座と夏休み企画が決まればいいなど考えている。</p>
会長	<p>事務局には、メールによる情報提供、こちらからの意見等についてのやり取りにあたって、締切日も含めて連絡をいただきたい。</p>

議 事 概 要

事務局	<p>連絡に当たっては締切日を明記する。</p> <p>「ア．気象予報士による防災出前講座」については、主題・副題の件と講師予定者への阿見町に関する情報提供の件は分けて考えて対応する。講師予定者への情報提供を通じてもっといいものになるような方向になるようにしたい。</p>
会長	<p>委員各位は主題・副題の件でアイデアを提供する。講師予定者への阿見町に関する情報提供の件は事務局に一任する。</p>
井上委員	<p>第5回講座「キャッシュレスに対する講座」は子どもが対象か、親子が対象か。</p>
事務局	<p>親子が対象になる。子どもが主体で親が見守る感じになる。</p>
井上委員	<p>親の方が良く知っている、講師よりも知っているかもしれない。若い親世代ならなおさらだと思う。</p>
会長	<p>親から話を聞くのではなく、面白いこと、ゲームの流れの中で楽しみながら体験しながら学習することかと思う。</p>
事務局	<p>キヤノンが関係した講座においても、やはり親子でやると雰囲気が違うし、会場も盛り上がる。</p>
会長	<p>親としては、覚えるということもあるが楽しみとして参加すると思う。夏休みだと何かしら参加させてあげたいと思う。親子で参加できるものをここ二、三年やっているのでもいいかなと思う。</p> <p>それでは、講座についてはこれでよろしいか。</p>
委員各位	<p>了。</p> <p>(2) パネル展について 事務局から今後の予定についての説明があった。</p> <p>(3) センターだよりについて 事務局から今後の予定についての説明があった。</p>

議 事 概 要

事務局	<p>(4) 小学生向けリーフレットの作成について 事務局から説明後、質疑応答&総合討論。</p> <p>資料がなく申し訳ないが、現状を説明させていただく。</p> <p>第1回会議で、一般的なものは学校でもやっていて、子どもたちもある程度知っているのだから必要ないとなった。</p> <p>第3回会議において「たたき台」を提示し、「無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）」にテーマを絞ることを提案し、方向性は了承された。一方、内容については、もっと精査すべきであるとしていろいろご指摘があった。</p> <p>その時の議論内容から、4点ほどに整理を試みた。</p> <p>1点目、小学生の特定の学年や子供向けと狭く固定的に考えず、「初心者向け、入口のように考え」ていいのではないかとの意見を取り入れる。馴染みがない言葉であればなおさらで、多くの人の理解につながる事が大事ということ。「子ども」の定義も法律によって様々で、「こども基本法」では「こども」とは心身の発達の過程にある者と定義している。</p> <p>2点目、「アンコンシャス・バイアス」の横文字を覚えるのではなく、中身の理解が大事であり、分かりやすく「思い込み・決めつけ」を主として使用してもよいのではないかとの意見を取り入れる。</p> <p>3点目、2点目と関連し「アンコン」という用語の使用の可否についてのご指摘を踏まえ、内閣府の担当部署（男女共同参画局総務課）に確認した結果、使用しないこととした。先方の話として</p> <ul style="list-style-type: none">・言葉自体の認知度が低い（先方のアンケート結果で 21.4%）ので、日本語主体でもいいのではないか。・略語（アンコン）の存在は承知しているが内閣府としては使用していない。・最初に「無意識の思い込み」のことを「アンコンシャス・バイアス」と言うと入れておけばそれでいいのではないか。 <p>といった助言をいただいたことから判断した。</p> <p>4点目、前回ご指摘のあった個々の文言などについて修正する。</p> <ul style="list-style-type: none">・「アンコン」は使用しないで「思い込み・決めつけ」に置き換える。・「血液型」は例とせず、「服装・見た目」に置き換える。・「判断」は「決めつけ」に置き換える。 <p>【質疑応答&総合討論】</p>
-----	---

議 事 概 要

新橋委員	<p>男は仕事・女は家庭を守るというのは実は育休制度にも関係している。なぜ育休制度の中で男性はあまり休まないのかは、「男は仕事・女は家庭を守る」といった思想がまだ根強いということがある。それから、女性は比較的長く育休を取るが、男性は短い。会社側が代替要員を置かない、今まで3人でやっていた仕事を1人休んでも残りの人がカバーするという形であり、なかなか育休が進まない。一番大きな問題は、潜在的な意識として「男は仕事」ということを子どもの頃から思っていて、育休に関する各種制度は大分拡充されているにもかかわらずなかなか進まないのは、今申し上げた男女の潜在的な意識というものが影響しているのかなと思う。</p>
会長	<p>「アンコンシャス・バイアス」という言葉は入った方がいいと思う。分かりやすい・分かりづらいということよりも、やはりこういう言葉が世の中にあるということを知るといふことも必要だと思う。初心者向けということなら、今知っている人たちが知っているか・知らないかといふのを判断する必要はないと思う。これから知ろうとする人のためのリーフレットなので、「アンコンシャス・バイアス」というのはこういうものだと知らせる。そうすると世の中でそういう言葉が出てきたときにその子どもたちはすぐ理解できることになる。その言葉を私たちが知っている・知らないといふものを作るわけではないのできちんと知らせるべきと考える。ただし、「アンコン」という言葉は使用する必要はない。</p>
井上委員	<p>「アンコン」という言葉はない。「アンコンシャス・バイアス」と言わないとこの意味にならない。「アンコン」は全く違う。</p>
事務局	<p>「アンコン」は内閣府発行の「共同参画」という雑誌に一部掲載があるなどから内閣府でも認識しているということかと思うが、正式に採用されて使用される用語ではないようなので使用しないこととした。</p>
会長	<p>作成時期はいつぐらいと想定しているのか。これはこれで時間を取らないとなかなか話は進まない、講座の検討と一緒にしてしまうと時間がかかるのではないか。</p>
事務局	<p>次回に整理したものを提示できればいいなとは思っているが、現時点で「いつ」とは言えない。</p>

議 事 概 要

会長	<p>少しずつ進めると理解した。</p> <p>(5)その他</p> <p>①次回（第5回）運営協議会開催日 日時：令和6年2月16日（金） 午後7時～9時 場所：中央公民館 3階 第一会議室</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
----	--